

「皮膚の病気になぜ梅毒が？」と、不思議に思われるかもしれませんがね。梅毒は梅毒トレポネーマという菌が原因で起こり、性行為でうつる感染症です。まず皮膚に症状が出ます。

昔は非常に多くの患者さんがいました。1940年にペニシリンという薬が開発され、ほとんどみられなくなりしました。しかしここ数年は、大都市を中心に全国で急速に増えています。インターネットなどを通じて出会った不特定の相手との性交渉、梅毒の流行国からの感染者の入国など、複数の要因が考えられます。広島県でも2014年までは毎年10人程度であった

皮膚の病気あれこれ

11

岩崎泰政

梅毒

パートナーを大切に



イラスト・霜野美香

性交渉で感染 患者急増

器や口にしこりとえぐれた傷ができます。股のリンパ節が腫れることもあります。傷は自然に治りますが、菌が体内に潜み、パートナーにうつす恐れがあります。

至ることもあります。抗菌薬をきっちり飲むことで治せます。ただし気づきにくいので、治療の遅れや感染拡大につながる危険な病気です。皆さんとパートナーを守るためにも、正しい知識を持ち、コンドームを使うなど予防することが重要です。

3カ月以上放置すると、菌は血液で全身に運ばれます。手のひらや足の裏に痛くもかゆくもない赤くかさかさしたぶつぶつと、全身にピンクの斑点ができ、それも数週間で消えます。数年たつと、皮膚や筋肉、骨にゴムのような腫瘍ができます。脳や心臓に合併症を起こし、死にいたります。

（岩崎皮ふ科・形成外科院長 長川福山市）

新規患者数は昨年は138人と、3年間で10倍以上になりました。今年はその倍、20代、女性は20代と若くなり、い世代に多いようです。梅毒はうつって3週間ほどで、感染者と接触した性